

## 令和7年度第1回伊勢市総合教育会議 結果概要

◆日時 令和8年1月21日(水) 18:00~18:50

◆会場 小俣総合支所 3階 大研修室

### ◆出席者

伊勢市長

小林 貴法 様(教育長)

中村 文大 様(教育長職務代理者)

右京 博巳 様(教育委員)

駒田 聡子 様(教育委員)

中西 康裕 様(教育委員)

### ◆欠席者

畑井 祐樹 様(教育委員)

### ◆出席職員

≪情報戦略局≫

情報戦略局長、情報戦略局参事、企画調整課長、同主査

≪教育委員会事務局≫

学校教育部長、事務部長、参事兼教育メディア課長、参事兼スポーツ課長、教育総務課長、学校施設整備課長、学校教育課長、学校教育課副参事(指導担当)、学校教育課副参事(学事保健担当)、学校教育課副参事(教職員担当)、社会教育課長、教育研究所長、教育メディア課副参事、教育メディア課主幹、教育総務課総務係長

### ◆内容

1 開会

2 市長あいさつ

3 協議事項

(1) 守る・育てる 情報モラル安心プロジェクトについて

4 その他

5 閉会

### ◇会議録(要録)

以下の要録は、事務局により要旨を編集したものです。微妙なニュアンス等が表現されておりませんので、ご了承ください。

### ■ 協議事項

(1) 守る・育てる 情報モラル安心プロジェクトについて

- ・守る・育てる 情報モラル安心プロジェクトについて、意見交換を行った。
- ・本日頂いたご意見を踏まえるととともに、引き続きご意見・ご支援をいただきながら取組を進めることを確認した。

#### <主な意見等>

- ・中学生のスマホ利用において、リアルマネートレードへの関わりが懸念される状況や、親が感知しないまま名前を知らない他者と繋がる怖さを感じた事例があった。
  - ・SNS で写真を勝手に使うなど、罪にあたる可能性がある。
  - ・アルゴリズムによって興味関心のある分野だけが連続性をもって表示されることに怖さを感じる。
  - ・そういった思いから、意識の啓発プロジェクトを開始した経緯がある。
- 
- ・子ども同士のトラブルの大半がインターネットがらみであり、加害者・被害者どちらも発生している。
  - ・トラブルに親が気づいていないケースが大半であり、学校現場としてこのことに強い危機感を持っている。また、中学校だけでなく、小学校でも発生している。
  - ・規制するのではなく、正しく使うことを伝えていくプロジェクトであり、すぐに結果が出るわけではないと承知している。
  - ・フィルタリングに関する保護者へのアンケートについて、実は約 50%が未回答であり、子どものスマホの使い方に無関心な家庭が多くあることを認識できた。
  - ・この認識を変えていくためには、長い時間が必要であり、継続的にプロジェクトを育てていくことが必要である。
- 
- ・食卓で子どもと向き合うことの重要性を伝えている一方で、今の子どもたちとスマホの関わりについてもあとでしっぺ返しがかかることを伝える必要性がある。
  - ・スマホが発語などの発達に影響を及ぼすデータもあることから、健診などのタイミングを活用しながら、人と関わることの楽しさを乳幼児期の保護者から伝えていくことが必要ではないか。
  - ・ルールを作るのであれば、「なぜか」を伝えることが重要である。
  - ・ロールプレイング的に子どもたち同士でスマホの怖さを体感させることも、相手の気持ちを考える上で重要である。
  - ・スマホと離れ、本をたくさん読むことも大事であることから、学童などで本と触れ合える環境の整備が必要である。こども読書プロジェクトとリンクさせること有効ではないか。
  - ・行政から一方的に伝えていくだけではなく、学童などでのつながりも活用しながら、保護者士で話をしてもらうことも重要ではないか。
- 
- ・デジタルに関しては、大半の大人が子どもに勝る知識・経験がない状態であり、親の指導にも限界があるのではないか。伊勢市全体で親にも子供にも伝えていくことが必要である。
  - ・スマホを持ち始めるタイミングが早まってきているので、小学校入学頃からの指導、毎年年齢が上がるたびにその年齢に応じた教育が必要である。
- 
- ・スマホ持っていないことが相対的な貧困と言われる時代において、子どもたちを制限することは難しいと感じる。
  - ・親からの語りかけにより脳が発達していく乳幼児期に、親が授乳中にスマホを触りながら育児したり、親が関与しない状態で幼児にスマホを使わせていることは、発達への影響も懸念され、問題だ

と感じている。親への教育を、乳幼児健診などのタイミングから組み入れてはどうか。

- ・ 小学校高学年からスマホを持つケースが多く、持っていないと遊びに参加できず、疎外感を感じることも発生する。
  - ・ 持ち始めて最初は制限をさせるものの、親よりもどんどん詳しくなり、使いこなしていく。
  - ・ 勉強にもスマホを活用しており、動画配信サイトでの授業単元の閲覧など、時と場所を選ばず学べることから有効性を感じる。一方で、辞書や参考書を使用せず、AI チャットボットを駆使して解決しているような使い方は、それが正しいのかどうか親としても判断に迷うところである。
  - ・ これからはスマホを使いこなさないと生き残れない時代である。
  - ・ 怖さを教えることも重要であるが、上手な付き合い方のアドバイス・好事例を伝えることも重要である。
- 
- ・ 就学後だけでなく、妊娠期・乳幼児期からのアプローチの必要性を感じた。
  - ・ 乳幼児期の発達への影響など、医学的なアプローチも検討していきたい。
  - ・ 読書・音楽・スポーツなどの体験型の授業とも親和性の高いプロジェクトであると感じた。
  - ・ ご意見を受けて、プロジェクトの内容精査をしていきたい。